

蒲郡のNPO法人オアシス

カンボジアと交流10年

節目の本年度5交流事業計画

開発途上国への教育支援活動を展開する蒲郡市のNPO法人オアシスは、カンボジアと交流して10年目を迎える。節目の年を機に、同国の教育関係者を蒲郡に招へいし、市民との交流の輪を広げようと様々な事業を計画している。
(多田羅有美)

「支援」から「人つなぐ懸け橋」へ

足立泰敏理事長(70)＝蒲郡市神ノ郷町＝は、本年度の活動を「Uターン事業」と位置付ける。これまで「人、もの、こと」を同国へ送る活動を続けてきたが、人を蒲郡に迎え入れ、市民や学生に交流の場を提供。人をつなぐ懸け橋としての活動の幅を広げる方針だ。市の「まちづくり事業助成金」の本年度対象事業にも選ばれた。

オアシスは1996年に発足し、2004年にNPO法人化した。会員の多くは元学校教諭で、現在、蒲郡を中心に県内7市1町の34人が参加する。アンコール遺跡群で知られるカンボジア王国シェ

ムリアップ州での学校開校支援や教材寄贈、マジック公演などを繰り広げている。

2013年に開校した同州バイヨン中学校では、運動会の開催に向けた指導を

行った。昨年1月には初めて3学年(約460人)が揃って運動会が実現した。蒲郡特産のロープを持ち込み、綱引きも楽しんだ。

学率が20%ほど。ポル・ポト政権下の影響でスポーツが根付いておらず、教育への関心も薄いという。運動会に親や地域住民を招くことによって、教育への関心を高める目的もある。

節目となる本年度は5つの交流事業を計画する。9月には「カンボジア&市民交流会」と題し、カンボジア人の教諭や在住日本人、カンボジア日本人留学生を



完成間近のバイヨン中学の前で、オアシスの皆さん(同)



シェムリアップ州バイヨン中学の運動会で行った綱引き(オアシス提供)

生同士のビデオレターの交換や、インタ

素敵な貴女の散歩道 いい店、いい味

TOWA PLAZA

ーネットを介したテレビ電話での交流なども目指す。

元中学教諭の足立理事長は「井戸や学校といったハードが整い、今後は中長期的な教育が重要。物をあげることは本来の支援ではない。自立へ導くことが重要」と力をこめる。